

合唱の部を終えて

本日、七中祭「合唱の部」が行われました。まず印象に残ったのは、各学年の学年合唱です。どの学年も迫力があり、聞きごたえのある素晴らしい合唱でした！

1年生の学年合唱は、とても初々しく、元気いっぱい一生懸命歌う姿が大変印象的でした。入学して半年あまりですが、仲間とともに声を合わせようとする姿から、これからの成長への期待を強く感じました。

2年生の学年合唱は、昨年の姿を思い出すと見違えるようでした。一人ひとりの表情や歌声に自信が感じられ、1年間の成長がはっきりと伝わってきました。学校の中心となる学年へと着実に成長していることを感じる合唱でした。

そして3年生の学年合唱は、まさに「さすが3年生」と思わせる圧巻の合唱でした。私は、今の3年生が1年生のときの学年合唱も、2年生のときの学年合唱も覚えています。1年生の頃と比べると、今日の合唱はまるで別の学年のように感じるほど素晴らしいものでした。そして、その合唱は昨年をも上回るものでした。歌声の美しさだけでなく、一人ひとりの思いが一つになった力強さを感じました。この3年間で積み重ねてきた成長の軌跡が伝わってくる、本当に見事な合唱でした。どの学年もそれぞれの良さがあって、大変素晴らしい学年合唱でした。

各クラスの発表では、どのクラスも緊張感をもちながら、これまでの練習の成果を精一杯発表してくれました。指揮者、伴奏者、パートリーダー、そしてクラスの仲間たちが力を合わせて創り上げた合唱には、それぞれのクラスの個性や思いがしっかりと表れていました。

さて、皆さんに改めて考えてほしいことがあります。皆さんは、この合唱を通して何を感じ、何を学んだでしょうか。もちろん、「今日の本番に向けて練習を頑張った」ということも大切なことです。しかし、合唱の価値はそれだけではありません。合唱練習が始まった頃は、クラス全員が同じ方向を向いていたわけではなかったと思います。声が出ない、音程が合わない、練習への意識に差があるなど、クラスごとに様々な課題があったはずです。しかし皆さんは、その課題から逃げることなく向き合ってきました。どうすればもっと良い合唱になるのか。どうすればクラスみんなの気持ちを一つにできるのか。指揮者や伴奏者、パートリーダーを中心に考え、仲間と声を掛け合い、ときには意見を交わしながら、一歩ずつ前へ進んできました。

また、今日の合唱は決して当日だけで完成したものではありません。ここまでの道のりを支えてくれた人たちへの感謝も忘れてはいけません。指揮者や伴奏者は、人前に立つ重圧を感じながらも、クラスのために練習を重ねてきました。パートリーダーは、自分自身も歌いながら仲間に声をかけ、より良い合唱を目指して努力を重ねてきました。また、合唱に対する思いを言葉にし、クラスをまとめようとした人、練習の準備をしてくれた人、仲間を励まし続けてくれた人もいたことでしょう。思うように声が出ない日があっても、自信がもてない部分があっても、あきらめずに練習に参加し、歌い続けた一人ひとりの努力があったからこそ、今日の合唱がありました。

合唱は決して一部の人のみで創り上げるものではありません。クラス全員がそれぞれの立場で役割を果たし、支え合ったからこそ完成したものです。今日という日を迎えるまで献身的に尽力してくれた仲間たちの努力に、ぜひ感謝の気持ちを伝えてほしいと思います。そして、ここまでよく頑張ってきた互いの努力を、クラスみんなで称え合ってほしいと思います。その過程こそが、皆さんにとって最も大きな学びだったのではないのでしょうか。一人では成し遂げられないことも、仲間と力を合わせることで実現できること。自分の役割を果たすことが全体の成功につながる。そして、お互いを信頼し支え合うことで、人はより大きな力を発揮できること。

今日歌った合唱は、単なる一曲ではありません。それは、クラス全員で悩み、考え、励まし合いながら創り上げてきた「クラスの軌跡」であり、「成長の証」です。結果は一つの評価として残ります。しかし、本当に価値があるのは、今日までの過程で皆さんが経験したこと、感じたこと、そして仲間とともに成長したこと。今回の合唱づくりで得た経験は、これから先の学校生活や将来社会に出たときにも必ず生きてきます。仲間とともに課題に向き合い、一つの目標に向かって力を合わせる経験は、皆さんの大きな財産になるはずです。今日の感動を一日の思い出で終わらせるのではなく、これからの学校生活につなげてください。そして、この合唱を通して学んだことを胸に、さらに成長していく皆さんを期待しています。